

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスぶどうの木阪神国道		
○保護者評価実施期間	令和6年11月2日		～ 令和6年11月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	令和6年12月3日		～ 令和6年12月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の子どもに対しての適切なアセスメントと個別支援計画の作成	個別担当制のため個々の持つ強みや課題、小さな変化や成長に気づきやすい。その様子を療育記録、アセスメント、モニタリングを通して精査し、個別支援計画に沿って個々にあった課題を用意し、変化成長を促している。	個別支援計画等の作成にあたり、担当指導員と児童発達支援管理責任者とのやり取りが中心となるため、他スタッフの意見や見立てを聞く機会も設けていきたい。
2	活動プログラムの立案と個別と集団の組み合わせ	個別担当の強みを活かして、個々にあった活動プログラムが立案出来ている。また同時間に来ていることもと小集団活動を行う際も、同じ取組みの中に個々の課題を取り入れた内容となっている。	子どもの様子を反映させた活動プログラムが立案されやすいため、今後は活動プログラムを全体で共有する機会も設けていきたい。
3	保護者へのサポート体制	毎回療育後に保護者と担当指導員にて面談をする時間を設けている。またそれ以外でも希望があれば別枠で面談の場を設けたり、電話での相談を受けたりしている。	相談に限らず、日々の様子を保護者と話す時間を大切にし、困った時に保護者が話しやすいと思ってもらえる雰囲気を引き続き大切にしていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニング、父母の会、地域に開かれた事業運営	毎回療育後に保護者と当所や家庭等の様子の共有を行なっている。一方でペアレントトレーニングや父母の会など全体を対象にした取り組みまでは至っていない。	個別療育の強みとして、個々にあった相談援助を軸に置きつつ、必要に応じて全体に向けて発信する機会も検討していきたい。
2	活動プログラムの立案と支援の振り返り	職員の配置数は適切で個別担当制を敷いているが、子どもの入れ替わり時は人が集まるため、個別対応が難しい時がある。また個別の活動プログラムの立案は各スタッフでの用意が中心となるため、日によってはその都度の共有や振り返りが難しい状況がある。	子どもが入れ替わる時間帯の各スタッフの動きの確認や、活動プログラムを共有する機会を設けていく。
3			